

捕獲個体の効率的な処理とジビエ利活用(佐賀県吉野ヶ里町・神崎市)

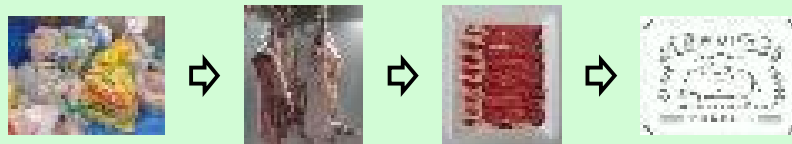
- 鳥獣処理施設を整備し、駆除したイノシシの処分方法を施設搬入のみに統一することで、駆除活動を効率化
- 廃棄されるだけであったイノシシ肉をジビエ利用することで、地域資源の有効活用や特産品としてブランド化

取組内容

- ① 吉野ヶ里町と神崎市の猟友会(駆除隊)が行う駆除活動で捕獲されたイノシシ及びアライグマについては埋設処分を行っていたが、平成30年からすべて処理施設での処分を可能にすることにより、駆除活動を効率化



- ② 処理施設に集められたイノシシをジビエ利用することで、今まで廃棄されていた資源を有効活用。加えて、ジビエをブランド化し地域の特産品に



成果

- 駆除従事者には埋設のための穴掘りが大きな負担となっていたが、処理施設への搬入のみが捕獲後の処理作業となり、労働量が軽減
- 処理の時間短縮により、見回りや誘引捕獲のための餌の設置などに注力できるようになり、駆除活動効率が向上
- ジビエ利用を行うことで、新たな雇用、新たな特産品を創出

捕獲個体の効率的な処理とジビエ利活用(佐賀県吉野ヶ里町・神崎市)

きっかけ・背景

- 駆除従事者の減少や高齢化に伴い、1人当たりの労働量が増加
- 駆除活動負担軽減のための対策が必要との要望

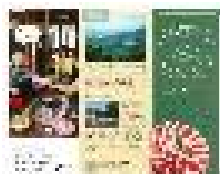


イノシシ処理施設

課題

- 処理施設を駆除従事者が整備・運営することは困難
- また、町で処理施設を整備・運営することも困難

ジビエパンフレット



Step1 整備・運営者の協議 (H28)

- 施設整備を町で行うが、運営については法人を設立し、猟友会(駆除従事者)で行えるかを協議

Step2 事業計画・範囲の協議 (H28)

- 処理するための施設ではなく、ジビエ利用の用途も付加することを協議
- 吉野ヶ里町だけでなく、隣接し駆除活動を共同で行っている神崎市と、広域的な駆除及びジビエ利用計画を協議

イノシシ肉スライス



Step3 関係者詳細協議 (H28～)

- 吉野ヶ里町、神崎市及び猟友会が協議を重ね、施設運営に関する詳細まで協議(作業内容・販路開拓・PR活動・運営費等)
- イノシシ処理施設運営開始(H30)

取組の特色

- 吉野ヶ里町及び神崎市で捕獲したイノシシをすべて搬入
- 処理施設の利用料や処分費を市町が負担し、駆除者の負担を軽減
- 元来、吉野ヶ里町ではイノシシ肉を食べる文化が浸透していなかったため、ジビエ(イノシシ肉)というだけではインパクトが弱かったことから、ロゴをデザインし、パンフレット・のぼり旗・缶バッジ等を作成してPRを実施

取組による成果・効果

- 駆除従事者は、捕獲後の労働力や経費が減少し、捕獲活動の効率化、活動意欲の低減を抑制
- 吉野ヶ里町及び神崎市で捕獲したイノシシをすべて搬入することで、ジビエ利用個体数が増加
- PRの効果もあり、イノシシ肉を取り扱う店舗が増加し、認知度が向上

集落ぐるみの取組で被害ゼロを実現(熊本県天草市楠浦町方原集落)

- 被害軽減のため、県で進めている「えづけSTOP!」対策を集落ぐるみで実践
- 集落全体で被害防止の意識を共有し、現状把握や対策の正しい知識を習得。環境整備、侵入防止柵の整備を実施
- H26年度から本格的な鳥獣被害対策を開始し、H29年度には被害ゼロを実現
- 集落内の侵入防止柵の維持・管理、定期的な集落パトロールや除草作業、情報共有等、対策を継続して実施

取組内容

- 集落全員で被害防止に対する意識を共有。自分たちで集落内を歩き、集落点検マップを作成。集落内の被害や周辺環境の状況等を把握



集落点検マップ



被害状況等の共有

- 専門家を招いての講習会の開催や先進地視察を実施し、イノシシの生態や環境整備、侵入防止柵の設置方法等、鳥獣被害対策についての正しい知識を習得



講習会



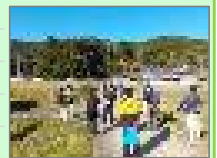
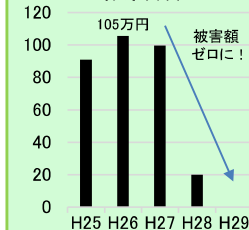
侵入防止柵の設置

- 習得した知識を生かし、侵入防止柵を設置し、維持・管理を徹底。捕獲効率向上のため、侵入防止柵の設置に併せて箱わなを設置

成果

- 集落ぐるみの取組により、鳥獣被害ゼロを実現
- 鳥獣被害対策の知識が集落全体に浸透し、自主的に被害対策を実施して継続
- 鳥獣被害対策に取り組んだことにより、集落内のコミュニケーションがより高まり、強い連帯感を形成
- 県の「鳥獣被害対策マスター集落」に認定され、住民の自信と活動意欲が向上

(万円) 被害額



視察の受入れ

集落ぐるみの取組で被害ゼロを実現(熊本県天草市楠浦町方原集落)

きっかけ・背景

- 水田の整備完了
- イノシシ被害が急増
- 住民が個々に電気柵を設置するも被害防止は低調

課題

- イノシシは未知の生物
→ 正しい知識の習得が必要
- 個々の取組、集落住民の高齢化による対策の限界
→ 集落ぐるみの被害対策が必要

Step1 合意形成・状況把握 (H26)

- 集落内での合意形成
→ 方原集落のほぼ全世帯が会議に参加し、被害防止に対する意識を共有
- 集落点検マップの作成
→ 集落内を歩き、点検を実施。被害や周辺環境の状況、けもの道等をマップで見える化したことで、集落の意識改革に成功

Step2 みんなで勉強 (H26)

- 専門家を招いて勉強会を開催
→ イノシシの生態や環境整備、侵入防止柵の設置方法等、正しい知識を習得し実践
- 先進地事例調査
→ 放任果樹の伐採やひそみ場の除去など

Step3 守れる集落づくり (H26～H28)

- 侵入防止柵の設置(全長9.1km)
→ 県単事業や国の鳥獣被害防止総合対策交付金を活用
- 侵入防止柵をブロック分けし、ブロック毎に代表者を任命することで、責任を持って維持・管理を徹底
- 箱わなの設置
→ 侵入防止柵と一体的に箱わなを設置することで、捕獲効率向上

Step4 定期的な点検等 (H26～)

- 集落パトロールや除草作業、点検
→ パトロールや除草作業は、年2回程度、集落のほぼ全世帯で実施
- 侵入防止柵の周辺の点検・補修は随時実施
- 会議で情報共有
→ 定期点検等で、被害や侵入防止柵の破損を発見した場合、各ブロック代表者の会議で情報共有し、その後の対策に活用

どうしようか…

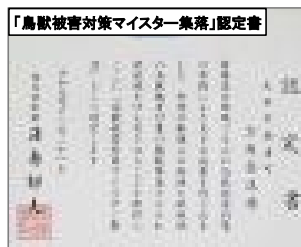
県の鳥獣被害対策担い手育成事業があります。(現:えづけSTOP! 鳥獣被害防止対策事業)



集落点検の様子



集落点検マップ(一部拡大)
侵入防止柵の設置計画や集落点検に活用



「鳥獣被害対策マスター集落」認定書

取組の特色

- 集落一丸となった取組
→ 活発な集落のコミュニケーションを活かし、集落内での被害防止に対する意識を共有、対策の知識が浸透
- 集落一丸となった取組につなげ、被害ゼロを実現
- 積極的に参加する集落の女性部も頼もしい存在
- 大変な中でもみんなで楽しみながら作業できることが、集落一丸で取り組むことの良さ

取組による成果・効果

- 鳥獣被害の軽減
→ H26年度に本格的な取組を開始
H29年度には被害ゼロを実現し、現在も継続
- 鳥獣被害対策の継続
→ 対策の知識が集落に浸透し、侵入防止柵の点検・管理、農地周辺の環境整備等を自主的に実施し継続
- 集落内コミュニケーションの活性化
→ 「イノシシ対策」をキーワードに集落内の連帯感がより一層パワーアップ
- 「鳥獣被害対策マスター集落」に認定
→ H30年度から視察の受入れを開始。R元年度に県から「鳥獣被害対策マスター集落」に認定され、住民の自信につながり、活動意欲を増進

- 【今後の活動方針】
- ・自分たちでできる対策の継続
- ・対策の継承と後継者育成
- ・視察受入れの継続

遅くとも翌日には
補修作業実施

実施主体：長崎県 農林部 農山村振興課 TEL095-895-2917

(佐賀県) 武雄地域鳥獣加工処理センター

- 捕獲した個体の埋設処理に係る労力を軽減するとともに、残渣を有効活用することにより地域住民に還元する循環型社会の形成を目指すため、国庫交付金を活用し減容化施設を整備。
- 市内で捕獲された個体は全て当施設に搬入し、捕獲確認後、ジビエに利用出来ない個体や解体した残渣を減容化施設で処理。
- 施設の整備により、埋設作業に係る捕獲従事者の負担が軽減。

施設の概要

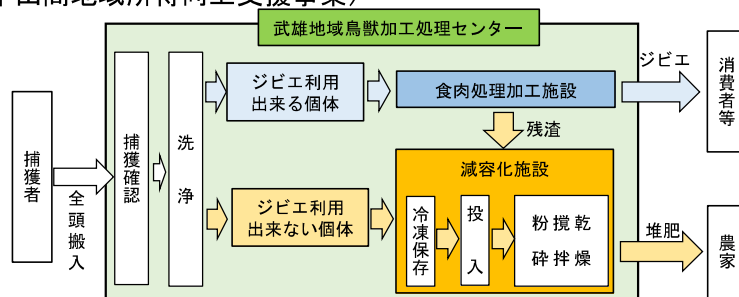
処理方法 乾燥処理による減容（装置式）
所在地 佐賀県武雄市
運営主体 株式会社武雄地域鳥獣加工処理センター（通称：やまんくじら）
主要設備 減容化処理装置1基、ベルトコンベア、スクルーコンベア、ふるい機、破碎機
対象鳥獣 イノシシ
処理能力 500～600kg/1バッチ（イノシシ最大20頭程度）
初期費用 3,036万円（減容化施設：2,706万円、建屋：330万円）
うち国庫交付金 1,670万円（中山間地域所得向上支援事業）
ランニングコスト 約100万円／年



減容化施設の外観

《施設の特徴》

- ・ 処理時間：約5～6時間
乾燥後は1日かけて冷却
- ・ 減容化率：約70%減少
- ・ 搬入費用：成獣4,000円、幼獣1,000円
- ・ 残渣利用：堆肥として活用を検討中



(熊本県) 天草市有害鳥獣処理施設

- 埋設処理に係る捕獲従事者の負担軽減を図るとともに、不完全な埋設処理による自然環境への影響も懸念されることから、国庫交付金を活用し、減容化施設を整備。
- 市内で捕獲された個体は、捕獲隊員が直接搬入、または処理施設職員が現地止め刺しを行い搬入。施設で一次冷凍保管したのち、減容化施設で処理。
- 施設の整備により、埋設作業に係る捕獲者の負担が軽減。

施設の概要

処理方法 乾燥処理による減容（装置式）
所在地 熊本県天草市
運営主体 天草市（施設の運転管理を民間に業務委託）
主要設備 減容化処理装置1基、ベルトコンベア、脱臭炉、冷凍コンテナ
対象鳥獣 イノシシ
処理能力 450kg/1バッチ
初期費用 事業費 5,479万円
うち国庫交付金 3,003万円（鳥獣被害防止総合対策交付金）
ランニングコスト 約1,040万円／年（市で負担。業務委託費含む。）



減容化施設の外観

《施設の特徴》

- ・ 処理時間：約5～6時間
乾燥後は1日かけて冷却
- ・ 減容化率：約65%減少
- ・ 原料利用：堆肥利用を検討中
- ・ 自動運転で、運転中の労力が不要
- ・ 無臭乾燥機による処理で臭いや排水が少ない



減容化処理装置

